

ざっくり見くらべ!

# 四大宗教

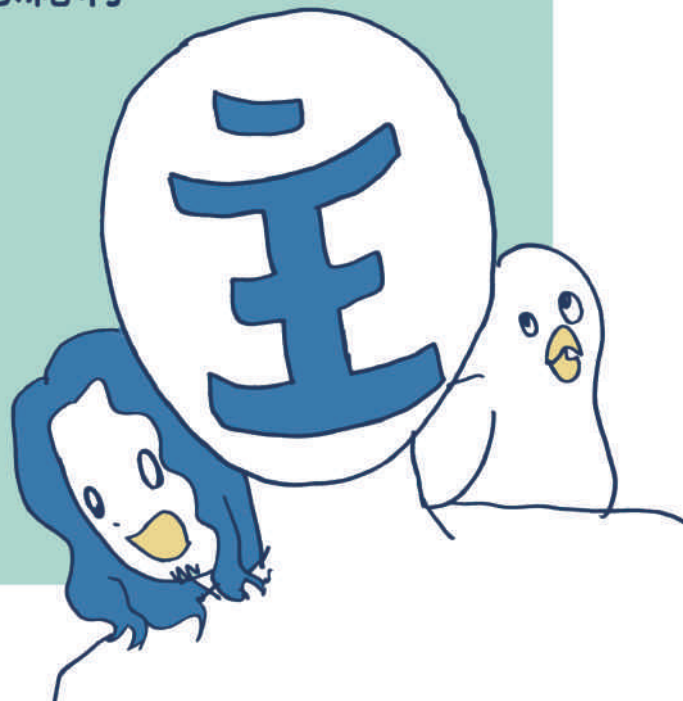
キリスト教

イスラム教

ヒンドゥー教

仏教

布施 志緒莉



じっくり見くらべ!

# 四大宗教

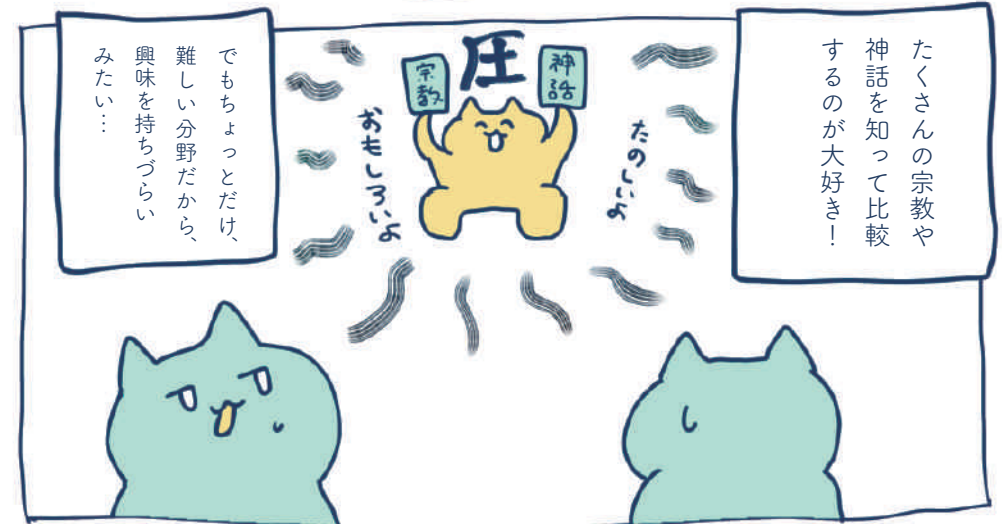
キリスト教

イスラム教

ヒンドゥー教

仏教

## 自己紹介



### しだい 四大宗教って？

世界のさまざまな地域で信仰されており、ある一定数の信者がいるキリスト教・イスラム教・ヒンドゥー教・仏教の四つの宗教のことをまとめて四大宗教とこの書籍内では表現します。

## はじめに

### 宗教って、どんなもの？

宗教に対して、どんなイメージをお持ちでしょうか。

ちょっと神秘的、難しそうなど、どこか近寄り難いイメージをお持ちの方もいらっしゃると思います。

私は宗教とは人類の長い歴史の中で発展していった人類の歴史そのものだと考えます。

現在では意味が無いと感じるルールや言い伝えも、昔の人々の暮らしにとっては非常に重要なものだったと考えることができます。

つまり現在も信仰されている宗教には、生きる上での知恵が引き継がれているといえるのではないのでしょうか。

ここでは、キリスト教・イスラム教・ヒンドゥー教・仏教の四つの宗教をさまざまな項目に分けて、比較します。

宗教ごとの違いを楽しんでください。

### 注意

この本はさまざまな宗教施設、宗教関連書籍を参考にし筆者自身の視点で考え、まとめ、表現したものです。

本来の宗教で表記されていることと差異があるかもしれません。自己解釈も多々含まれます。

宗教を馬鹿にする意図はありません。

本書籍の全ての内容を鵜呑みにするのではなく、「宗教ってこんな感じなのかな〜」「作者の思想バチバチじゃ〜ん」と軽く読んでください。

- 5 自己紹介
- 6 はじめに
- 8 宗教ざっくり説明

## 第1章 大切なことくらべ

- 12 主神くらべ
- 14 世界の宗教人口
- 16 世界の宗教分布
- 18 宗教ごとの聖典くらべ
- 20 神様の数は？
- 22 宗教の生まれ順

## 第2章 人生のことくらべ

- 24 宗教ごとの人生観
- 26 死んだらどこに行く？
- 28 死んだらどこに行く？わるいこ ver
- 30 楽しい世界の作り方
- 32 人間の生まれ方
- 34 実は身近な宗教用語

## 第3章 生活のことくらべ

- 36 タブーな食べ物
- 38 神様に捧げるもの
- 40 葬儀のやり方
- 43 あとがき
- 44 参考資料



## 宗教ざっくり説明

ここでは、それぞれの宗教についてざっくりと解説をする。この本は、ここに書いてある知識が前提条件となっているため、読んでから本編のページに進むと、より理解が深まるだろう。

### キリスト教

世界で一番信者が多い宗教。一神教で、神（主＝ヤハウェ）を信じることで天国に行けると教える。

神とその息子であるとされるイエス・キリストが代表的な人物。

様々な宗派があり、最も有名なのはカトリックとプロテスタント。

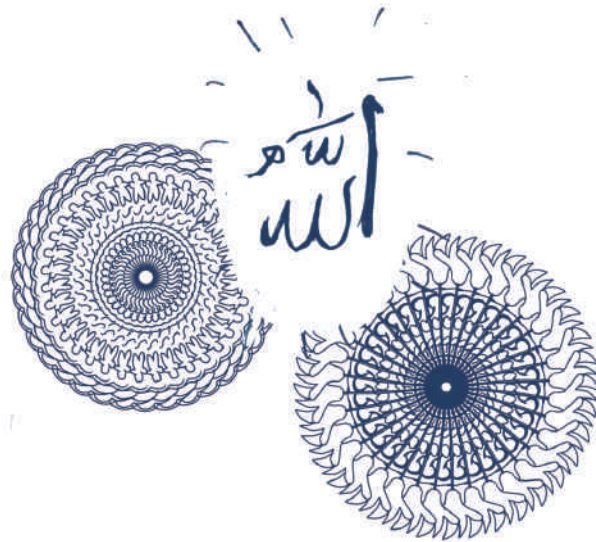


### イスラム教

世界宗教の中では最も新しい8世紀に成立した宗教。世界で2番目に信者が多く、主に中東で信仰されている。

歴史が浅いためか、他の宗教を参考・改善した教義も多い。自分たちの社会を「ウンマ」と呼ぶ。

「シャリーア」という宗教と生活に根付いた法があり、それに従って生活をしている。



### ヒンドゥー教

インド近辺で信仰されている。世界宗教の中では唯一の多神教。

様々な神が存在し、それに関する多くの逸話が残されている。

「ヴェーダ」という聖典を持ち、特に偶像崇拜が盛ん。

輪廻転成の概念がある。

右の図はインドにある「ミナクシ寺院」ヒンドゥー教に登場する神々・戦士・動物などの優れた彫刻が特徴的な寺院だ。



### 仏教

古代インドでバラモン教が流行していた時代にブッダを開祖として生まれた宗教。ゴーダマ・シッダールタという1人の人間が悟りを開き、ブッダ（悟りを開いた者の意味）になった。

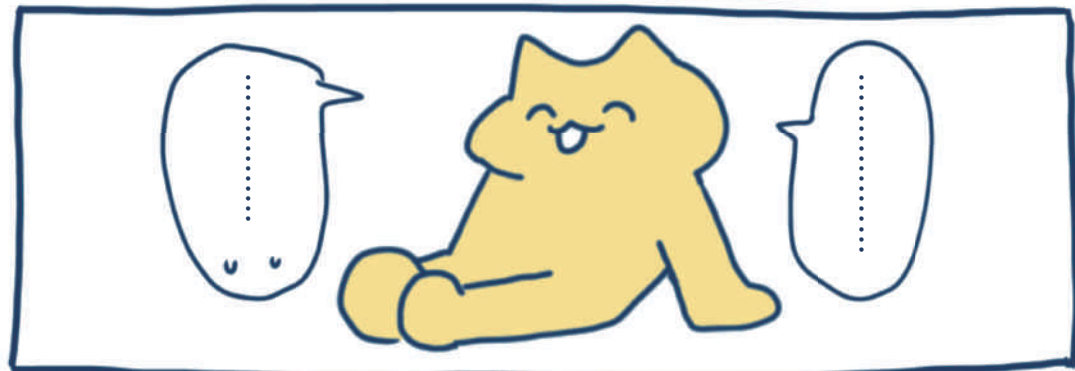
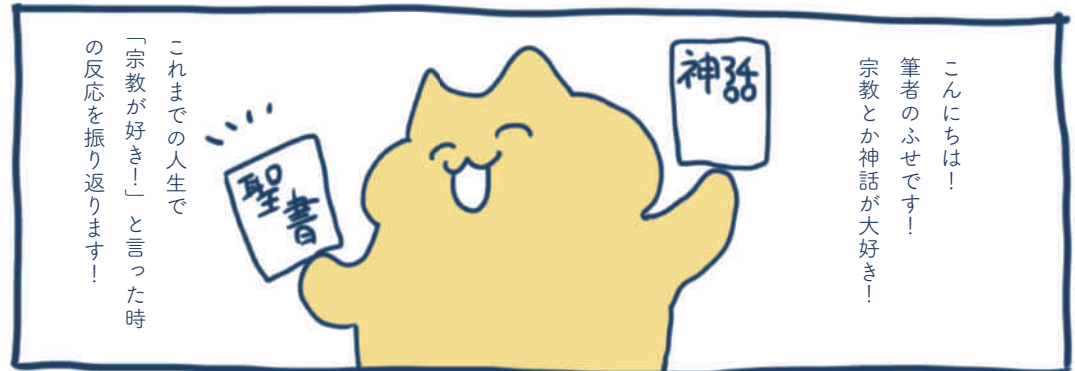
輪廻転生などの当時のヒンドゥー教の概念を取り入れている。





# 第 1 章

## 大切なことくらべ





## 主神くらべ

主神とは宗教の軸であり、従うべき模範であり、尊いものである。特に一神教では、様々な共通点を見つけることができるだろう。

ここではイエスやムハンマドといった預言者の類は別物とし、神様のみを紹介する。

### キリスト教 ヤハウエ

キリスト教の前身となったユダヤ教の創造神であり唯一神。

日本語では「主」と訳される。

三位一体という概念で、神（ヤハウエ）とイエス・キリスト、聖霊が同一視される。モーセの十戒のなかに「神の名をみだりに唱えてはいけない」とあるため、神の名をいう習慣がなくなっていった。

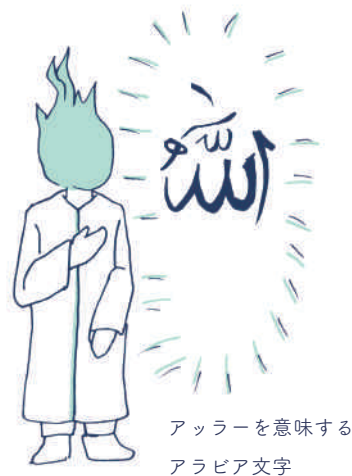
聖書に「自らの姿に似せて人間を作った」と書いてあるので、人型で表現した。



### イスラム教 アッラー

ユダヤ教の後輩であるイスラム教は、かなりキリスト教と似通った点が多く、アッラーもヤハウエと似た存在のようだ。

全ての偶像崇拜が禁止されているため、アッラーをモチーフにした美術品は存在しない。ここではアッラーのマークと光で便宜上アッラーを表現させてもらう。



## ヒンドゥー教

### ブラフマー・ヴィシュヌ・シヴァ

ヒンドゥー教は、この中では唯一多神教であり、中心になる神も三人存在している。この3人はトリムルティと呼ばれ、持っている力は違うが同一人物という説もある。

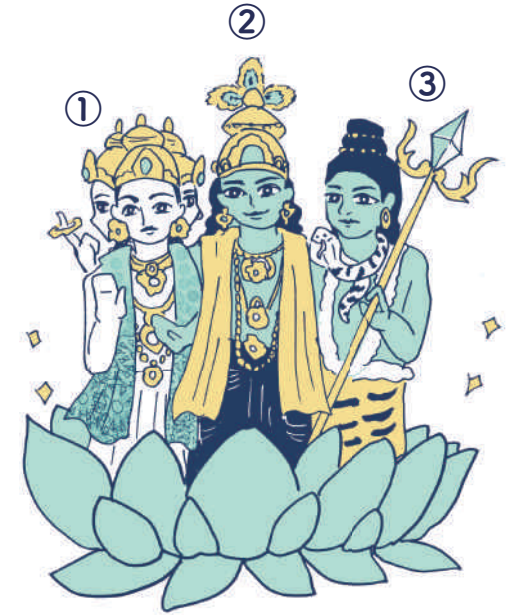
美術品では、一つの体からその3人の神の首が生えている人間ケルベロス状態のものもあり、若干怖い。

#### ①ブラフマー

宇宙と様々な生物の創造神。四つの顔を持ち、その四つの口から四種類の「ヴェーダ」を紡いだとされる。

#### ②ヴィシュヌ

世界が悪の脅威に晒されたとき、守護者として様々な化身を使い、地上に現れる。「<sup>あまね</sup>遍く満たす」という意味の名前。



#### ③シヴァ

破壊と再生を司る神。残酷な側面と穏やかな側面の両方を併せ持つ。聖典「リグ・ヴェーダ」では前身となったルドラ神の別名。

## 仏教

### 釈迦（ブッダ）

ブッダとは「悟りを開いた者」という意味。シャーキヤ族の王子であるゴータマ・シッダールタが修行によって悟りを開き、ブッダになった。

現在の仏教では釈迦のみがブッダと認められているが、一時期は過去に生まれた、未来に生まれる多数のブッダもいるという説があった。



## 世界の宗教人口

今回取り上げる四大宗教は、世界の中でも特にメジャーな宗教である。宗教人口を比較することで、これまで各宗教がどのように布教したか、またどの地域で受け入れられたかがわかるだろう。

### キリスト教

初めは様々な土地で異端扱いされていたが、今では全世界で一番教徒が多い宗教だ。歴史では大航海時代が始まり、遠くの地に宣教師が行けるようになったことから、信者数の拡大に繋がった。布教に伴い、各地で行われていた信仰や信仰されていた神を貶めるなど色々やっているの、かなり荒っぽい布教方法と言えるだろう。

### イスラム教

四大宗教の中では最も歴史が浅いにも関わらず、世界で2番目に信者が多い。特筆すべきは信者になるハードルの低さだろう。イスラム教徒2人の前で、「アラーの他に神はなし、ムハンマドはその使徒である、アリは神の保護者である」とアラビア語で言うだけだそう。そのような手軽さも、信者数獲得の助けになったかもしれない。

### ヒンドゥー教

インド教やバラモン教などから進化したものがヒンドゥー教だ。世界で3番目に信者が多く、その大体がインド国民だ。インド国内で有名な「ヴェーダ」という聖典の世界観に基づいた宗教のため、四大宗教では唯一、身分格差がある宗教だ。

### 仏教

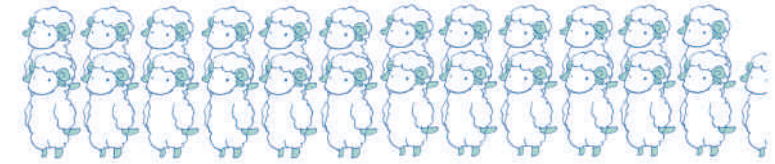
四大宗教の中では最も人数の少ない5.2億人。バラモン教の支配から逃れるために興った宗教だった。しかし、そもそもの理論やお経などが難しく、当時のインテリ層にしか受け入れられなかった。そのため、バラモン教の改良であるヒンドゥー教や、もっと簡単な宗教に人が流れてしまった。

## 全世界での宗教人口



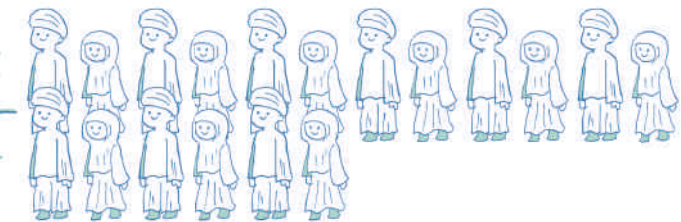
キリスト教

24.5 億人



イスラム教

18 億人



ヒンドゥー教

10.25 億人



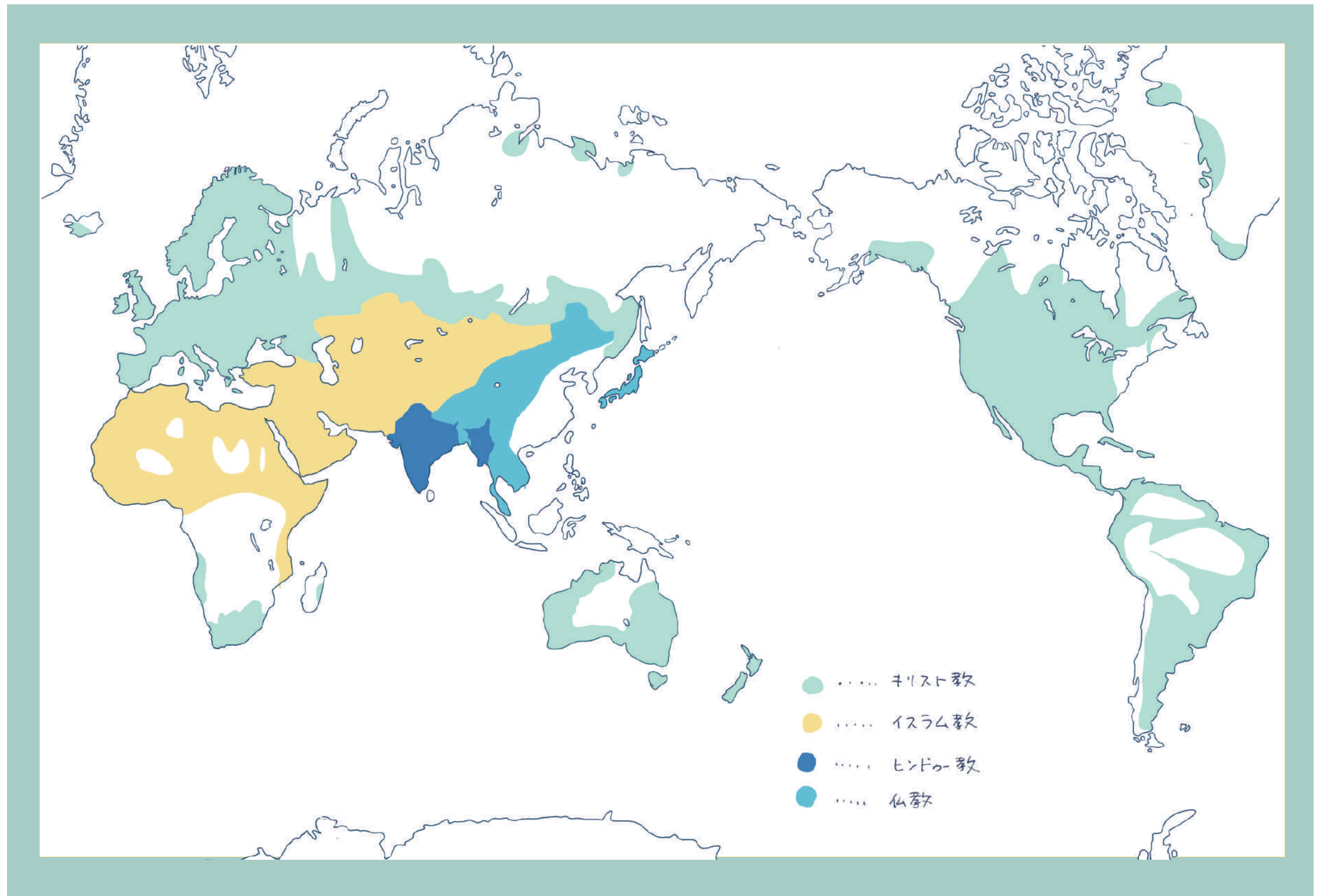
仏教

5.2 億人





## 全世界の大まかな宗教分布



## 宗教ごとの聖典くらべ

宗教にとって必要不可欠なもの一つ、聖典。ここではそれらについて解説する。聖典には神の言葉や生活の規範などが難しい言葉で書かれているが、読んでみると思いのほか常識的なことが書いてある。

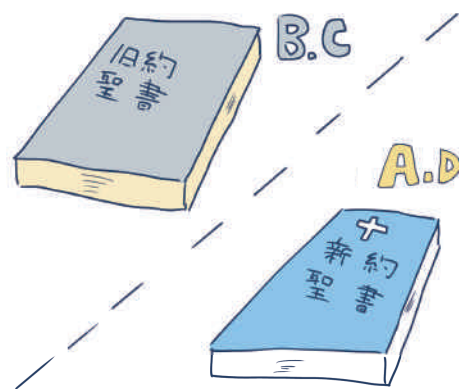
### キリスト教

#### 旧約聖書と新約聖書

旧約聖書と新約聖書の2つがキリスト教の聖典である。旧約聖書の「旧約」はキリスト誕生以前に神と交わされた古い契約のこと。新約聖書はキリスト誕生後の新しい契約のことである。

旧約・新約聖書に入りきらなかった文献は外典と呼ばれ、その数はかなりのものだ。

キリストが生まれる前の話



キリストが生まれてからの話

### イスラム教

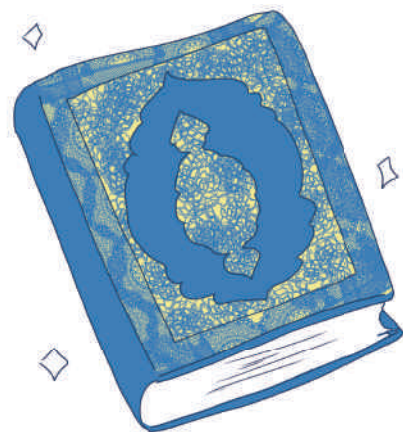
#### コーラン

コーランとは、イスラム教においての預言者であるムハンマドが、神の言葉を民衆に説いた際に部下にまとめさせた冊子。

コーランはアラビア語で与えられた啓示とされている。そのため、多言語に翻訳したものは表面的なものではないようだ。

全部で114章あり、様々な項目でムハンマドが受けた啓示が記されている。

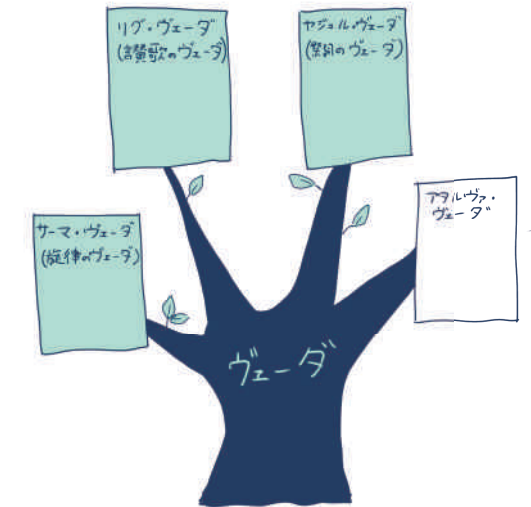
装丁が豪華で美しい。



### ヒンドゥー教 4つのヴェーダ

ヴェーダとはインドの最古の宗教で使用されていた聖典のことだ。

バラモン教から生まれたヒンドゥー教では、儀式担当の祭官の4つの役割に合わせて、それぞれのヴェーダが生まれ、またそこから数多く派生していった。



#### リグ・ヴェーダ (讃歌のヴェーダ)

インド文学最古の文献。古来の司祭達から伝わる、いくつかの讃歌を一つにまとめたアンソロジー。

#### サーマ・ヴェーダ (旋律のヴェーダ)

リグ・ヴェーダとほぼ同じ讃歌の収録だが、歌うために楽譜がついている。

#### ヤジュル・ヴェーダ (祭司のヴェーダ)

いくつかの校訂本で伝えられる。黒と白の二種類があり、黒は祭司の散文に注釈がある。白は祭詞のみ。

#### アタルヴァ・ヴェーダ

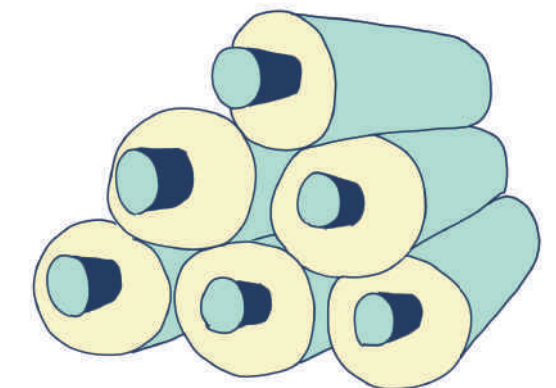
ほか3つと違い、呪術的・思弁的な性質がある。伝承ではハブられがち。

### 仏教

#### 数多くの経文

仏教では、ブッダの教えを弟子が書き写したものを経文と呼ぶが、他の宗教のように一つにまとめられたものは、メジャーになることはなかった。そのため、仏教では聖書のように代表的な聖典は存在しない。

馴染み深い話をすると、西遊記に登場する三蔵法師はインドに般若心経を含むお経を学びに行き、持ち帰ったとされる。



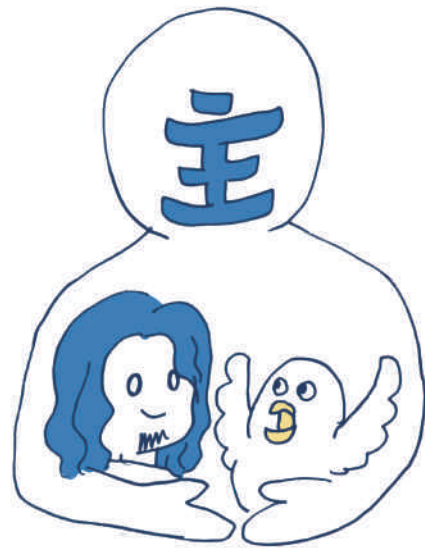
## 神様の数は？

神様の数は宗教によって大きく二つに分けられる。一神教か、多神教かだ。ここでは宗教ごとの神様の数を比較し、それぞれの違いを存分に味わっていただきたい。なお解釈次第では一神教が多神教になることもある。

### キリスト教 一神教

キリスト教において、神はヤハウェただ1人だけである。

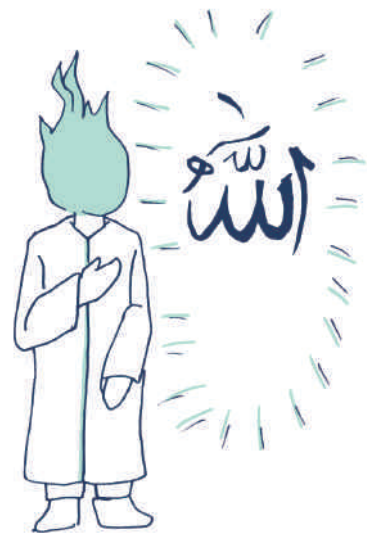
誤解されやすいが、キリストは救世主であり、神(ヤハウェ)のもう一つの姿にすぎない。キリスト教徒はキリストを崇めることで、三位一体の神を崇めている事になる。



### イスラム教 一神教

アッラーという神のみがこの世に存在しているとされる。これはキリスト教のヤハウェと同一の存在だ。

ムハンマドは神の言葉を受け取る預言者なので、ここでも信仰の対象には入らないが、尊敬の対象にはなるだろう。



### ヒンドゥー教 数多くの神様

世界宗教の中で唯一の多神教だ。ヒンドゥー教の神様は笑い、泣き、子を成す。人間と変わらない喜怒哀楽と人間ではありえない超常的な能力を持つ。

主神となるのはブラフマー・ヴィシュヌ・シヴァだが、それ以外にもバラエティ豊かな神々が登場する。



#### ①カーリー

殺戮と破壊の女神。首飾りが倒した敵の首で、踊ると大地を砕くので夫が代わりに踏まれている。

#### ③ガネーシャ

あらゆる障害を打ち砕く神で、インドでは特に人気。特徴的な象の頭は、父親に元の頭を飛ばされ象の頭をすげ替えたもの。

#### ②ラクシャサ

鬼神の総称。破壊と滅亡を司る神で、多くは乱暴者。よく神々と戦っている。仏教では「羅刹」と呼ばれる。

#### ④サラスヴァティ

ブラフマーの妻。サンスクリット語で「泉を持つもの」の意味。日本では「弁財天」の名前で親しまれる。

### 仏教 ブッダのみ

ブッダは「悟りを開いた者」の意味だ。そもそも開祖がブッダであり、その教えで輪廻の解脱を目指す宗教なので、正確に言えば神様の数と称するのは間違いかもしれない。しかしこう書くしかないのだ。





## 宗教の生まれ順

宗教は歴史が深いですが、比べてみると思いのほか興<sup>おこ</sup>った年にばらつきが見られる。特に興味深いのはキリスト教とイスラム教だ。世界の宗教人口ではトップを誇る2宗教が、ヒンドゥー教・仏教よりも新しいのは、少々意外だろう。



ヒンドゥー教

B.C  
Before Christ



仏教

### ヒンドゥー教

紀元前 2300 年ごろ (諸説あり)

ヒンドゥー教は、はるか昔からインドで信仰されてきたバラモン教などが元となっている。時代が進むごとにさまざまな逸話が増えたり、消えたりしている。

### 仏教

紀元前 8 世紀ごろ

バラモン教やジャイナ教などが流行している時代にブッダによって設立した宗教。ブッダが元々は王子ということもあり、内容が難しく当時のインドではインテリ層向けの宗教だったようだ。

現在、インドではほぼ信仰されていない。

### キリスト教

紀元元年

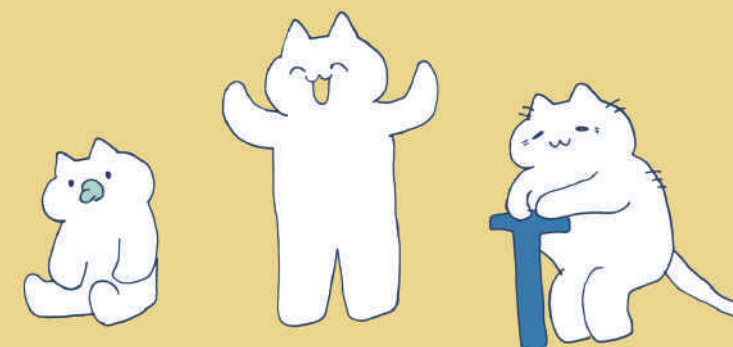
聞きなれない言葉だが、「●世紀」という言葉がイエス・キリストが生まれてから何年経ったのか、を指す単位だ。前身となったユダヤ教はもっと前からあったが、キリスト教として大きな変革を迎えた日を、宗教の生まれた日と制定している。

### イスラム教

8 世紀

イスラム教はキリスト教と同じ神様を信仰する宗教だ。商人ムハンマドが天使からのお告げを聞き、宗教を立ち上げた。

当時はイスラム社会では偶像崇拝が当たり前だったが、イスラム教の勢いは凄まじく、当時の宗教を塗り替えてしまった。



## 第 2 章

# 人生のことくらべ

A.D

Anno Domini



イスラム教



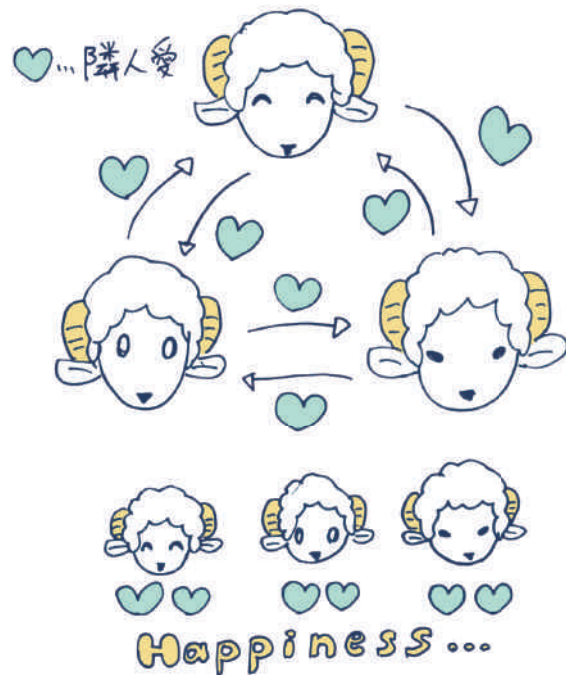
キリスト教

## 宗教ごとの人生観

宗教は、平和や愛など社会で共同生活を送るために必要なことを教えるものが多い。その中でも特に宗教によって大切にされている考え方をピックアップした。大概は社会のルールを守ること、人生を受け入れること、自分以外を受け入れることが必要とされているようだ。

### キリスト教 隣人愛

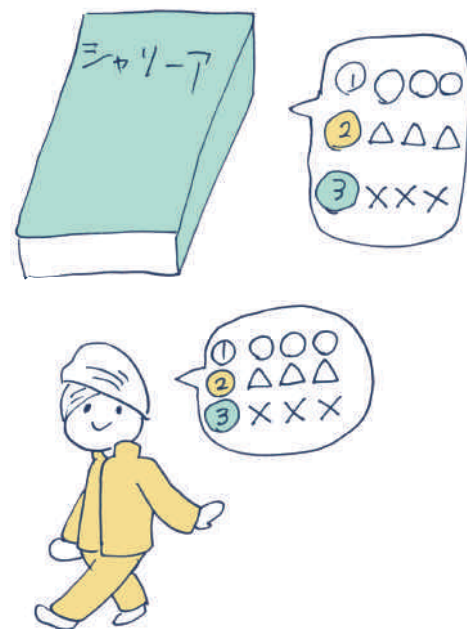
読んで字の通り、他の人々を愛すること。ここでの「愛」は、他の人に幸せになってもらうために、自主的な行動を起こすこと。この用語はユダヤ教の戒律の一説に由来している。「あなたは人々という子らに仕返しをし、恨みを抱いてはならない。あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい。」  
(レビ記 19 章 18 節)



### イスラム教

#### シャリーアに従い、人生を送る

シャリーア（聖法）とは、イスラム教徒が従うべき神に由来するルールだ。これに従うことは神の意志に沿う事になる。信心深いイスラム教徒によれば、宗教生活と日常生活に区別はなく、このシャリーアに従うことで天国への道が開かれるそうだ。



### ヒンドゥー教 矛盾すら受け入れ解脱を目指す

ヒンドゥー教の教義の中には、明らかに矛盾している内容も多くある。その違いに優劣はなく、矛盾すら受け入れて信じるのがヒンドゥー教だ。輪廻転生を繰り返すものの、行き着く先はいいところで徳を積んだ人間だ。そこで人生の最大目標を「解脱」とする考え方が生まれた。



### 仏教 人生はしんどい、解脱しよう

仏教の最大の目標が「解脱」。人生は苦しく、輪廻転生から抜け出すために解脱を必要としている。ヒンドゥー教と同じルーツを持っている。

#### 四苦八苦について

「生きるにあたっての苦しみとなる要素」という仏教用語から生まれた言葉。「四苦」と他の四つの苦しみを合せて「八苦」となった。この苦しみを捨てることで解脱に繋がる。



## 死んだらどこに行く？

人生において外せない一大イベントの一つが死だ。宗教では人は死んだらどこに行くのか？を考え、教え導く項目が多い。その死生観は宗教・地域によって大きく異なる。そこで本項目では生を終えた時にどうなるのかを解説する。

### キリスト教 天国

聖書にとって天国は「神の国」と呼ばれ、最後の審判の後に人間の魂が訪れる場所だ。

天国はもともと神のいる場所にすぎなかったが、時代が進むにつれて人間が死後行く場所に変化していった。

実はキリスト教の天国の描写はあまりされていない。そのため、様々な絵画や文学等で天国が描写されてきた。



### イスラム教 泉が溢れる天国

泉が湧き流れる豊かな庭園、美しい若者に囲まれて至高の食べ物や飲み物・酒を楽しむ場所だ。いくら飲んでも酔わない美味しい酒もあるそうだ。

美味しいご飯・酒・美しい人というなかなか地に足のついた天国である。

また天国には天使や「ジン」と呼ばれる精霊も存在しているという。



### ヒンドゥー教 極楽浄土と解脱

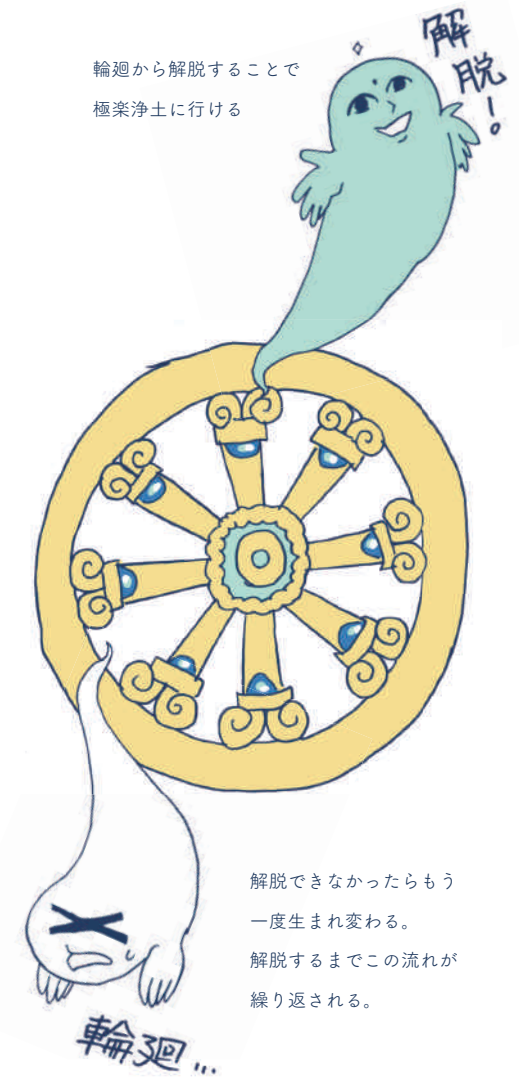
ヒンドゥー教には「輪廻転生」という死んだら別のものに生まれ変わるという考え方があり、生前の行いで次に生まれる環境が決まるという仕組みだ。

そしてヒンドゥー教の天国は「天」と「極楽浄土」の二つがある。

「天」は輪廻における最上位にある世界で、苦痛はなく、楽しく暮らせる。しかし不死でなく、死んだらまた輪廻を巡ることになる。

輪廻を解脱することで死ぬことのない「極楽浄土」に至ることができる。

極楽浄土では空気は綺麗で過ごしやすく、人に教えを与えることで精神的な安らぎに満ちているという。



### 仏教 輪廻を繰り返す

仏教でも死後の世界は無く、死んだ後は輪廻転生し、また何かに生まれ変わる。

この輪廻から解脱し、辛い人生を終わらせたい、そのために修行することが仏教の基本的な考え方になる。

死んだ後すぐにゴールがあるわけではなく、どの人生でも自己研鑽に励み、解脱を目指す必要があるのだ。





## 死んだらどこに行く？

あるいこ ver

天国と切っても切り離せないものが地獄だ。死後に怖い世界に行ってしまうから、悪いことをするのはやめなさいという抑止力の一つになる。

宗教ごとの地獄を比較し、どんな人が地獄に行くのか、特徴を見てみよう。

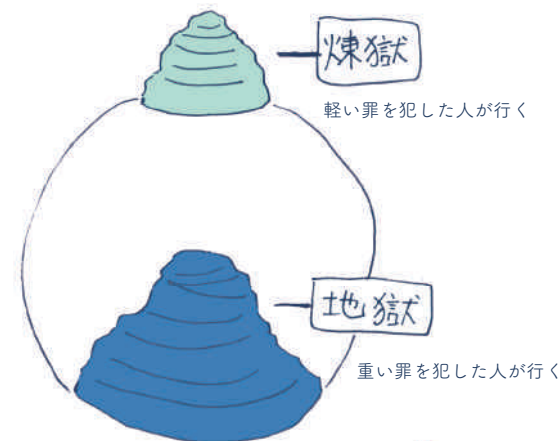
### キリスト教

れんごく  
煉獄・地獄

キリスト教では、軽い罪を犯した人が行く煉獄と悪人が行く地獄の二つがある。

自分の意思によって教えに逆らう行いをし、永遠に神から離れることで地獄に行く。また、人間をそそのかし、教えに背かせようとする多くの悪魔が存在する。

創作の舞台にもなりやすく、ダンデの「神曲」などが有名だ。



### コラム

#### ルシファーとギブリーズ 墮天使物語

キリスト教とイスラム教には天使が存在し、その中には神と袂を分けた「墮天使」が存在する。

キリスト教では「ルシファー」、イスラム教では「ギブリース」といい、それに関する逸話もほぼ同じ内容だ。

神が人間を創造した時に、神は自分の部下である天使に対し、人間を敬うように言った。しかし、ルシファー（ギブリース）は「泥から作った人間に頭下げないもんね！」と拒否。怒った神に墮天させられ、その復讐に人間を墮落させるとのこと。

人間側は巻き込まれ事故である。



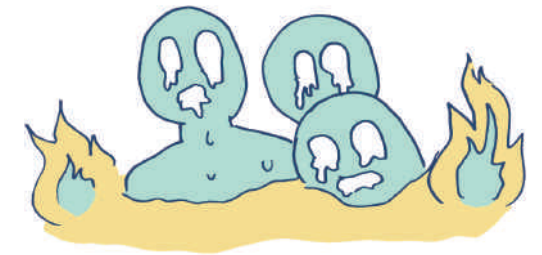
### イスラム教

#### 地獄

罪人が心身ともに苦痛を味わう場所。

胸と頭は絶望と恐怖にあふれ、体は業火と溶けた鉄によって傷つく。

コーランによれば、人間は自分の行為に責任があり、真実の神の道に従う人は神の慈悲を勝ち取り、従わない人は神の怒りを買い、地獄に行くという。



### ヒンドゥー教

#### 地獄

原初の男性である「ヤマ」は先祖が集まる天国の主人とされたが、他の宗派の天国と比較した時に見劣りしてしまった。

そのため現世で悪いことをした人間が行く「地獄」の概念を作ったら、めちゃくちゃ信仰されるようになってしまった。

ヤマは地獄の主人となり、現代まで語られている。

ヤマは日本では「閻魔」と呼ばれている。



### 仏教

#### 地獄がある地域も

インドで興った仏教では地獄という概念はなかった。

日本に伝来した際、様々な宗教観が混じり、ヒンドゥー教の地獄と似たものが存在する仏教が出来た。

日本の地獄の特徴は、インドとは違い官位がある役人があることだ。

そして仏教の根本的な五つの戒律〔五戒〕を破ると地獄行きになる。



## 楽しい世界の作り方

この世はどのように始まったのか？神様が作ったり、自然に発生した物だったり、さまざまなパターンを見ることができる。

ここに表記されるもの以外にも世界創造の種類はあるので、気になったら調べてみよう。

### キリスト教

#### 神が6日かけて作った

日本でも有名な「天地創造」。神が世界を作り上げた時の逸話が存在する。

また、「天地創造」と、アダムとイブが登場する「エデン神話」では生命のできあがる順番が異なるが、これは遊牧民だったイスラエル民族が、当時のエジプト・メソポタミアなど高度文明の創造神話から影響を受け、自分たちの神話に取り入れたためだ。



1日目  
光と時間を作った



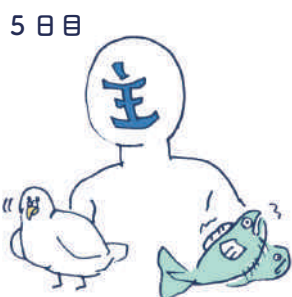
2日目  
空を作った



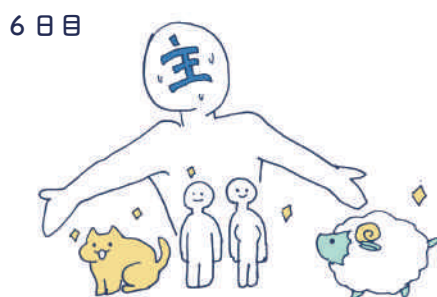
3日目  
大地と海、植物を作った



4日目  
昼と夜を作った



5日目  
鳥と魚を作った



6日目  
動物、家畜、人間を作った



7日目  
やっと休日！  
これが「安息日」の由来だ

### イスラム教

#### 全てはアッラーが作った

すべてのものはアッラーによって作られたと言われる。コーランにも度々その供述が出てくる。特に時間をかけて作ったという文章もないので、1日であつという間に用意してしまったのだろうか。

過程より結果を意識する価値観が見える。



### ヒンドゥー教

#### ブラフマー神が生まれた殻

初めに混沌とした世界があり、原初の水（ナラ）が生まれた。その水に種が落ち、種は「宇宙卵」になり、そこからブラフマー神が生まれた。

ブラフマー神は卵の殻の上部分を天界に、下部分で地界を作り出し、あらゆる生命・世界を創造した。

この「宇宙卵」という考え方は、各地の神話によく出てくる。おいしそうだね。



### 仏教

#### 記載なし

仏教は悟りを開くことを目的とした宗教なので、世界の始まり等に重きを置いていない。またヒンドゥー教と世界観を共有しているが、世界観の解説は数少ない。そのため、仏教に世界の始まりは存在しないと思われる。





## 人間の生まれ方

神と人間は切っても切れない関係にある。それぞれの宗教の人間の生まれ方によって、宗教ごとの人間と神の関係性を知ることができるだろう。

また人間の始まりの概念がない仏教も、ある意味ではその宗教を象徴していると言える。

### キリスト教 神が6日目に作った

天地創造の中で、6日目に人間を作ったという記述が出てくる。

泥をこねて、自らの姿と似た男女の人間を作り、それを地上で最も偉い生物としたと聖書には記述がある。



### コラム アダムの1人目の妻・リリス

原初の人間といえば、有名なアダムとイヴだろう。しかし、イヴはアダムの肋骨から作られたという話がある。

実は、アダムにはイヴではない1人目の妻・リリスが存在していたというエピソードが各地に存在する。

天地創造の6日目にアダムと共に生まれたリリスだったが、主に男女平等に扱うように訴える。主はそれを怒り、リリスの下半身を蛇にして追い出してしまった。

以上の話から、当時の女性の身分の低さがうかがえる。また、現在では女性解放運動の象徴の一つにされている。



### イスラム教 全てはアッラーが作った

すべてのものはアッラーによって作られたと言われる。おそらく人間も世界と同時に作ってしまったのだろう。イスラム教は四大宗教の中で最も歴史が浅い宗教のためか、神の万能さが特に際立つ記述が多い。



### ヒンドゥー教 「マヌ」という指導者

「マヌ法典」に記述があるマヌという人間が人間の祖になったとされる。

時代の切り替わりを生き残り、次の時代の指導者になった。その後、人間を産んだとされる。

また、ヒンドゥー教の最初の男女は「ヤマ（日本では閻魔）」と「ヤーミー」。



マツヤ(聖なる魚)  
ヴィシュヌの化身。  
大洪水からマヌと七人の賢者を  
守った。

### 仏教 記載なし

仏教は悟りを得ることを目的とした宗教なので、人間の生まれ方に重きを置いていない。そのため、人間の始まりの概念はない。





## 実は身近な宗教用語

### キリスト教

#### 目から鱗

新約聖書の有名な話より。後にキリストの一番弟子になるパウロはキリストに出会ってあまりの眩しさに盲目になってしまう。その後、目から鱗のような物が落ち、また目が見えるようになった。

### 仏教

#### 愛嬌

仏教用語の「愛敬<sup>あいぎょう</sup>」が語源で、「愛し敬うこと」の意味。

菩薩の優しく温和な様子を「愛敬相」、人々の親睦を祈り、互いに愛し敬う心を起こさせる行動を「愛敬法」という。

#### ありがとう

有る事が稀である、滅多に無い事、という言葉から「有り難し」と使われるようになったとされる。

似た単語で「盲亀の浮木」という仏教由来の言葉がある。

### ヒンドゥー教

#### ヨガ

古代インド発祥の伝統的な瞑想。

心身、感覚器官を鍛錬によって制御し、精神統一し、心の働きを止め解脱に至ることが目的だった。現代のエクササイズ的なヨガはまた違う流派のヨガだ。

### 豚に真珠

「神聖なものを犬に与えてはならず、また真珠を豚に投げてはならない。それを足で踏みにじり、向き直ってあなたがたにかみついてくるだろう」というキリストの有名な「山上の説教」からの言葉。

### 学生

元々は「学匠<sup>がくしょう</sup>」ともいい、仏道を学習する僧、儒教などを学ぶ者を指す。

大学寮の学生を意味していたが、後に大寺で学ぶ僧も指すようになった。



## 第3章

# 生活のことくらべ

## タブーな食べ物

宗教と食は密接な関係にある。

有名なのはイスラム教の「ハラール」(アラビア語で「許された」の意味)という考え方だろう。今となっては不思議なルールだが、歴史を紐解くと実はきちんとした理由がある。また各地の食事情を知ることもできる。

### キリスト教 ほぼ無い

キリスト教は多くの地域で信仰されている影響からか、これといったタブーはない。一部の宗派では食の禁止事項があるが、ごく少数である。

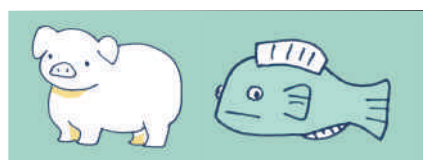
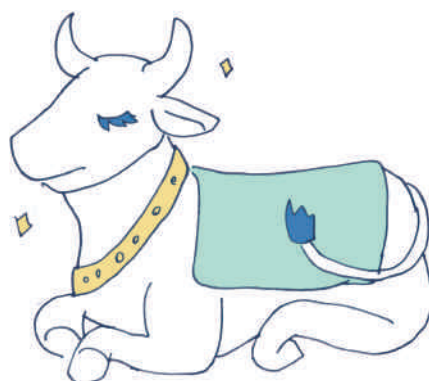
そこで禁止されているものは、酒・肉全般・コーヒーや紅茶などだ。菜食を勧めている宗派も存在する。

広い地域で信仰されているからこそその寛容さと言えるだろう。



### ヒンドゥー教 牛肉・豚肉・魚介類

豚肉は「不浄の動物」として食べないが、牛肉は全く逆で「神聖な動物」だから食べないのだ。牛は大切な神様の1人であるヴィシュヌの乗り物「ナンディー神」と伝えられる。そのためインドでは牛を食べることは許されていない。とはいえ大昔には牛は食べられている。その後人口が増加し、農耕を行う上で大切な牛を失わないための戒律だったのだろう。



不浄な食べ物

## イスラム教 豚肉・酒

豚肉を「不浄の動物」として扱っており、イスラム教徒が口にすることはほぼ無い。考えられることとして、昔の衛生環境では火を完全に通さなければ食べられない豚肉を食べるリスクが高かったのだろう。

酒も初期のイスラム教では禁じられていなかったのだが、酒関係でトラブルが相次ぎ禁止になった。酔っ払いって厄介…。ちなみに禁止された食材のことは「ハラーム」と呼ばれる。



### 酒絡みのトラブル



信者同士のケンカ



コーランの読み間違い



### 仏教 現代ではほぼ無し

昔は不殺生の戒律から、肉を食べてはいけない等があったが、現代では一部の戒律が厳しい宗派のみが肉食を禁止している。

なんでも



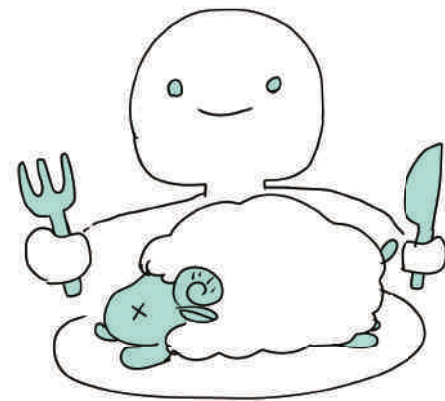
いただきます

## 神様に捧げるものとは？

人々はいつの時代も神様に多くのものを捧げてきた。捧げものは、その土地に暮らす人々にとっても大切なものであることに違いない。ここではそれらを紹介する。  
大半は食物が選ばれるなど、共通項がある。似た部分や似てない部分を見つけてみよう。

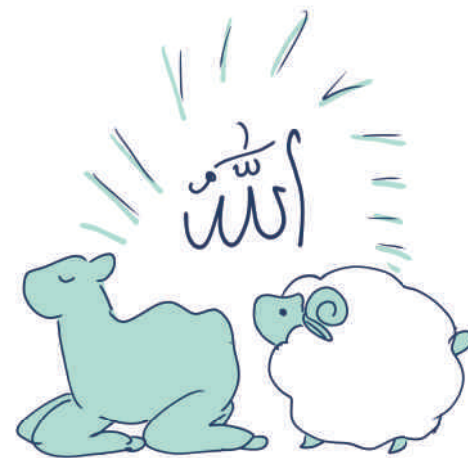
### キリスト教 羊の肉

ヤハウエは何故か羊が好きである。アダムとイヴの息子であるカインとアベルの逸話では、カインが捧げた羊を受け取り、アベルが捧げた農作物は受け取らなかった。これはイスラエルの民が遊牧民だったこと、厳しい歴史の中でいかに動物性タンパク質が重要だったかがわかる話である。



### イスラム教 羊・らくだ

キリスト教（ユダヤ教）の後輩であり、農業に向いていない土地の影響からか、こちらも羊がよく捧げられる。また暑い地方らしく、らくだも食用として捧げられてきた。やはり環境が厳しい土地には動物性タンパク質！生きるために大切だ。



### ヒンドゥー教 ソーマ酒や様々な食品

インドという土地は、農業や畜産が盛んだった影響で、主な捧げものも農作物や牛乳、溶かしたバター（カロリー高そう）や雄山羊のいけにえなどでバラエティ豊かである。

特徴的なのは神話に登場するソーマ酒で、神々と人間に活力を与えるとされ、興奮作用などがある。ソーマ草という植物から作られた酒とされているが、植物学的になんの植物かは特定されていない。



### 仏教 乳粥、そのほか

ブッダに捧げたものとして非常に有名なのは、悟りを開くきっかけになった乳粥だ。また、仏教には托鉢（信者から施しを受ける）という修行法が存在する。だいたいなんでも受け取るので、肉も自分のために殺された肉でなければ食していいという緩めのルール。

現代では線香やお花が一般的である。



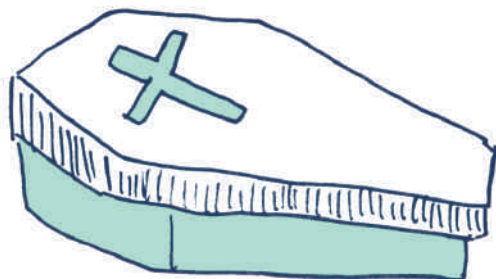


## 葬儀のやり方

宗教色が最も濃くあらわれるのは葬儀の場だ。遺体の葬り方、儀式のやり方など特色豊かである。各宗教の遺体の扱い方などから、人間の死という大きな出来事をどう捉えているか見ることができる。

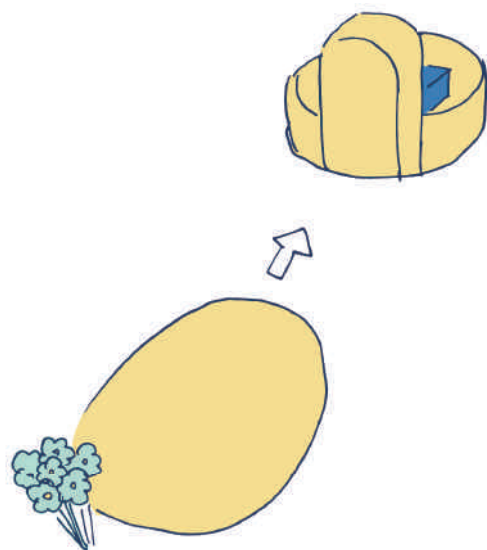
### キリスト教 土葬

キリストが復活したという逸話から、肉体をそのままにして葬る土葬が一般的。しかし日本など火葬をする地域のキリスト教徒は、土葬をする場所が存在しない・衛生上の問題のため、火葬になるという。宗教<土地のルールと言えらる。



### イスラム教 メッカに向かって土葬

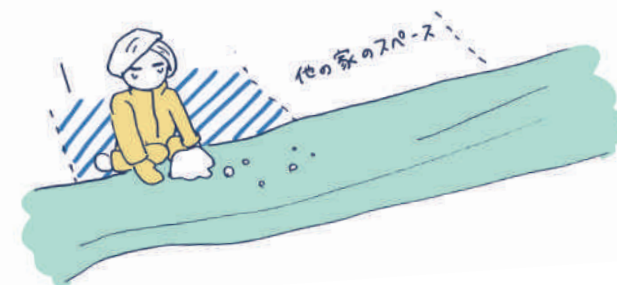
土葬が一般的で、また送り出し方も盛大だ。まず今際の際に、「アザーン」という呼びかけを年長者に行ってもらう。臨終を確認したら、体を清め、棺に収める。棺は家族・親族の男性によって担がれ、墓まで運ばれ、メッカの方角に頭を向けた状態で埋められるそう。



### ヒンドゥー教 火葬後ガンジス川へ

インドはとても広く、宗派によってその方法は様々だ。

基本的には、火葬をし遺骨をガンジス川に流すという方法がある。ガンジス川は「罪を清める」とされており、遺骨を流すことで辛い輪廻を終わらせようという考えだ。ガンジス川で遺骨を流すスペースは家ごとに決まっている。



### 仏教 火葬

多湿な環境ゆえか、アジアでは火葬が多い。仏教はインドで発生したもので、ヒンドゥー教と同じく火葬が用いられた。日本では神道の影響で明治時代～昭和初期までは土葬を行う場所もあったようだ。



### コラム チベット仏教 鳥葬

仏教の一つであるチベット仏教は、土葬ではなく鳥葬で死者を葬る。鳥の体内に入ることによって自然に帰っていくそう。実際のところ、チベットの土は掘るのが困難なほど硬く、薪も貴重だったそう。土地柄的に火葬に適さなかったため、このような手段を取ったと考えられる。



## あとがき

---

### 宗教は、人類の歴史そのもの

読んでいただいてありがとうございます。

この本で宗教と一口に言ってもさまざまな考え方、価値観があることをわかっていただければ嬉しいです。

一見ファンタジックで信憑性に欠ける記述も、それまでの出来事や歴史から考察すると、ある出来事・考え方の言い換えだったり、調べれば調べるほど現実に沿った教え・逸話であることがわかります。

ただの注意喚起より、神様から言われている方がルールとして守りたくくなりますね。

「グローバル化」という言葉すら出なくなるほど、インターネット等で世界と交流を持つことは当たり前になりました。しかし、私たちは世界の大半の人間が生活に取り入れる「宗教」というものをあまり意識せずに生きています。

例えば、お盆にお墓参りに行くこと、亡くなった人に手を合わせたり、話しかけることも実は宗教的な行為です。

世界の人々と話をするにあたって、相手の信じる宗教について知ることは相手のことをよく知るための手助けとなります。

この本で「宗教への偏見を無くしたい」という思いで1年間制作しました。

宗教は私たちが人生をより良く、健やかに生きるための教えです。

「宗教」というジャンルに触れる一つのきっかけとなりますように。

追記 語れば語るほど、うさん臭く感じるのが宗教のよくない点です。

2022年2月5日 布施志緒莉

## 参考資料

マートル・ラングリー「世界の宗教入門」(2004) あすなろ書房

島田 裕巳「なぜ人は宗教にハマるのか？」(2010)

釈 徹宗「異教の隣人」(2018)

平藤 喜久子「世界の神様解剖図鑑」(2020)

マチュー・グランブレ「世にも美しい教養講義 超図解宗教  
—100のインフォグラフィックで世界を知る」(2017)

前島誠「総図解よくわかる聖書とキリスト教」(2011) 新人物往来社

池上英洋「Pen Books 西洋美術で読み解く聖書の世界 キリスト教とは何か」  
(2011) 阪急コミュニケーションズ

ニール・モリス「世界宗教の謎 イスラム教」(2004) ゆまに書房

M.S. ゴードン「イスラム教」(1994) 青土社

内藤正典「となりのイスラム」(2016) ミシマ社

マーティン・J・ドハティ「インド神話物語百科」(2021) 原書房

ルイ・ルヌー「インド教」(1960) 文庫クセジュ

アニータ・ガネリ「世界宗教の謎 仏教」(2004) ゆまに書房

中村元・田辺和子「ブッダ物語」(1990) 岩波書店

「メトロポリタン美術館全集第11巻 東洋」(1987) 福武書店

## ざっくり見くらべ！四大宗教

2022年2月5日 初版発行

発行人 布施志緒莉

印刷所 冊子製本キング

研究室 天野研究室

2022年度卒業制作作品



